

2020年度 小委員会活動成果報告

(2021年2月25日作成)

小委員会名	集落復興小委員会	主 査 名：鈴木孝男 就任年月：2018年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：神吉紀世子
設 置 期 間	2018年4月 ～ 2022年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災集落・地域における被害実態・復興過程を記録検証する。 ・被災集落・地域における居住地の復興計画、集落施設の再建、生業や住宅を含む社会的再建のあり方を議論し提言する。 ・被災集落・地域における復興計画を支援する。 初年度：災害に強い集落の調査研究と情報収集を行う。研究集会を企画実施。 2年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 3年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 4年度：補足的に被災集落等の調査研究の実施と研究集会の企画実施。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	主査：鈴木孝男(新潟食料農業大学) 幹事：菊池義浩(兵庫県立大学大学院)、友淵貴之(宮城大学) 委員：岡田知子(西日本工業大学)、山崎寿一(神戸大学)、後藤隆太郎(佐賀大学)、田中暁子(後藤・安田記念東京都市研究所)、浅井秀子(鳥取大学)、佐藤栄治(宇都宮大学)、澤田雅浩(兵庫県立大学大学院)、三笠友洋(西日本工業大学)、本塚智貴(明石工業高等専門学校)、下田元毅(大阪大学大学院)、林 和典(大阪大学大学院)	
設置WG (WG名：目的)		
2020年度予算	150,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3回(10/20 幹事会、12/10 小委員会、2/16 小委員会)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 小委員会活動の蓄積を社会発信するために、「災害としなやかに付き合う知恵」をテーマとして機関紙「ニューライフ」へ連載をしている。2020年4月号「しなやかに災害と付き合う知恵」の連載にあたって、筑紫平野の微地形と住まい方(後藤)、5月号「風のカタチ」(下田)、7・8月合併号「自助・共助を育む集落のカタチ」(友淵)、9月号「まちなみから読み解く災害と復興の記憶」(菊池)、10・11月合併号「想定外と言わない災害対応」(本塚)、12月号「農山村に住み続ける築地松の農村散居集落」(浅井)、1月号「災害後の住宅再建に向けた住民意識の推移と復興に向けて」(佐藤) 2. コロナの影響により予定していた合同による事例踏査は中止となった。しか

	<p>し、現場の情報を収集するためにオンラインによる [公開]委員会を実施し、雪害、風・水害に向き合う農村計画論と集落復興のあり方について、多くの知見を整理・発信することができた。</p> <p>→2020年12月10日、「しなやかに災害と付き合う知恵 雪国の住まいと集落」、講師：沼野夏生（東北工業大学名誉教授）、参加者数23名</p> <p>→2021年 2月16日、「しなやかに災害と付き合う知恵 ハリケーン・カトリーナの例」、講師：近藤民代（神戸大学）、参加者数18名</p> <p>以上、状況の変化により若干の遅れはあるものの、概ね目標を達成している。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍での事例踏査の自粛や安全確保 2. 研究資金の確保、企画担当者の負担増、委員の日程調整の困難さなど